

令和元年度 山陽小野田市障がい福祉施策の推進に係る実態及びニーズ調査（市民用） 結果（概要版）

調査概要

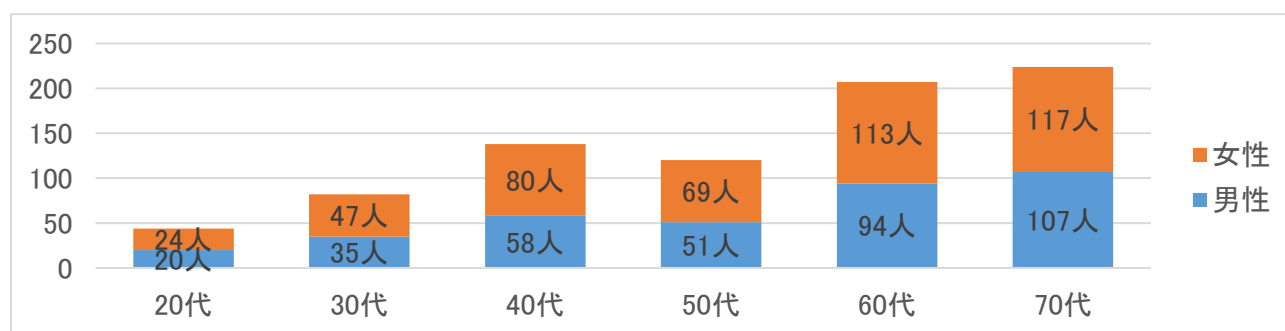
調査実施： 2019 年 11～12 月

調査対象者： 20 歳～79 歳の山陽小野田市民から無作為抽出

有効配布数 1991 枚 （2000 枚郵送し、9 件宛所不明で届かず）

回収数 820 枚、 回収率 41.2%

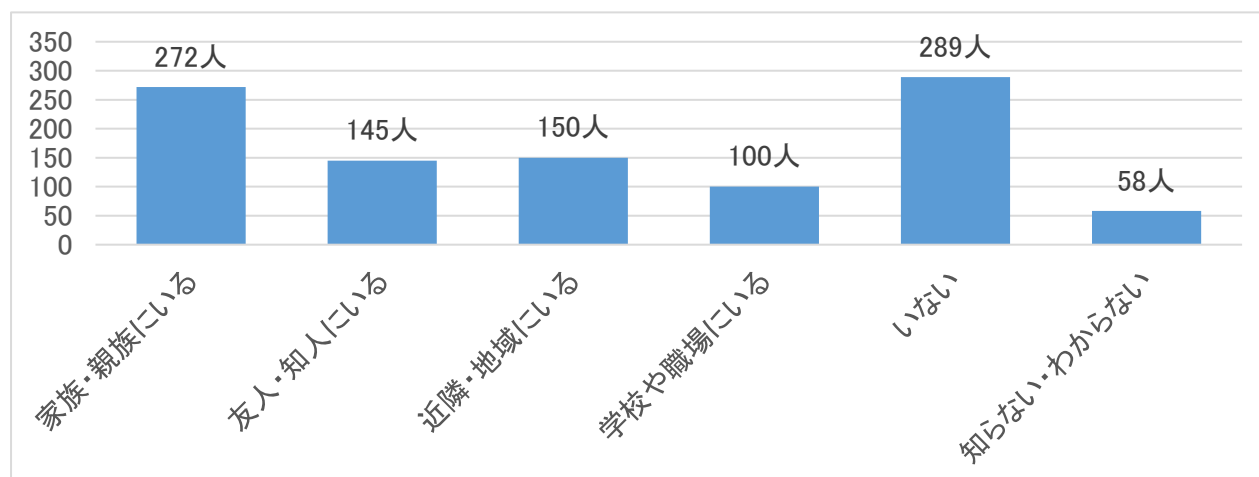
回答者の年代別性別



●障がい者支援に関する関心等について

☆市民どなたの身近にも障がいのある方がおられる。

【問 4】 身近に障がいのある方はおられますか。（該当するものすべて）



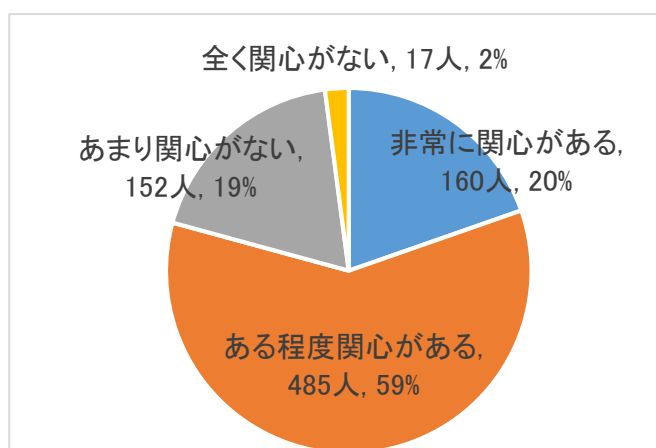
回答者の3人に1人は「家族・親族にいる」、5人に1人は「近隣・地域にいる」と答え、「いない」という回答は全体の35%程度であったことから、市民どなたの身近にも障がいのある方がおられることがわかります。

☆障がい者支援に対する市民の関心は高い。

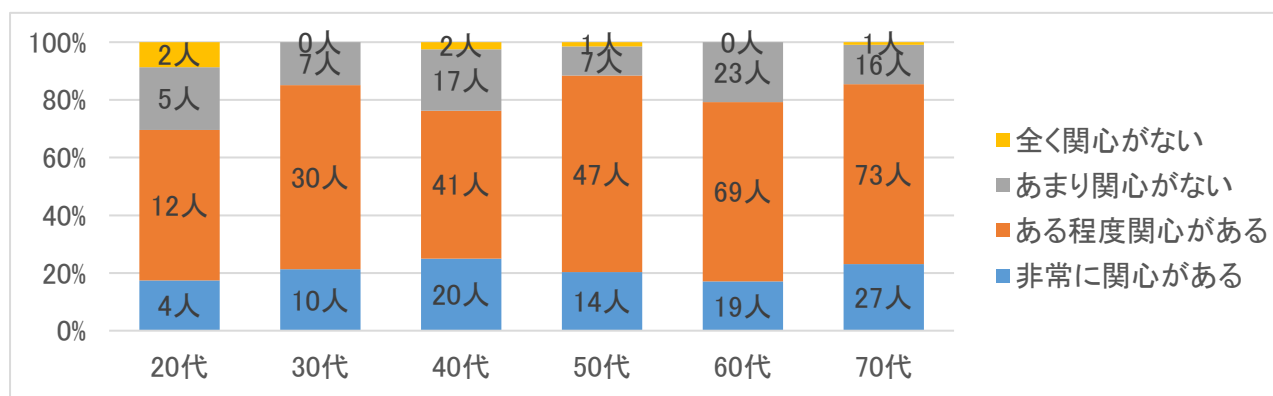
【問5】

障がい者支援について関心がありますか。

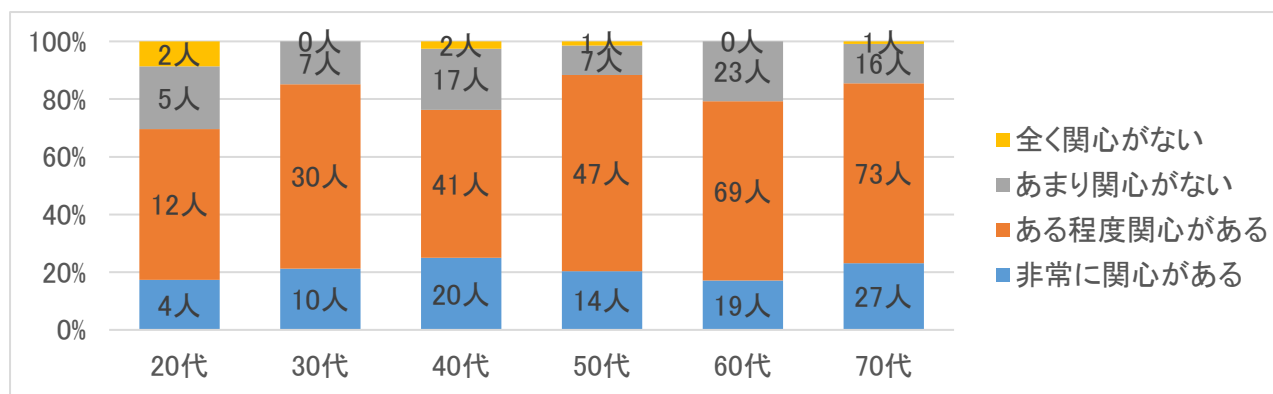
(1 つだけ)



＜男性年代別＞



＜女性年代別＞

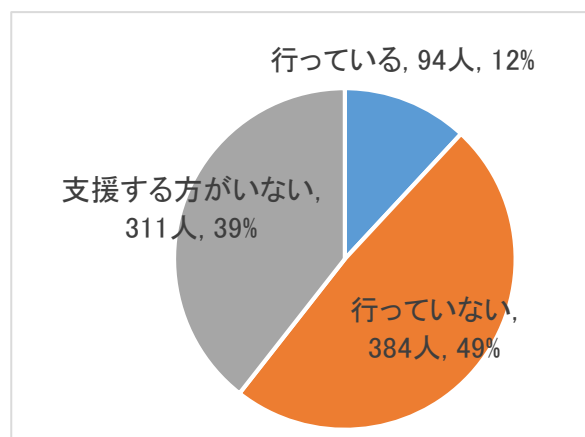


回答者の約8割が「非常に興味がある」もしくは「ある程度関心がある」と答えており、障がい者支援に対する市民の関心が高いことがわかります。男女どの年代でも約2割の人が障がい者支援に対し非常に興味を持っています。

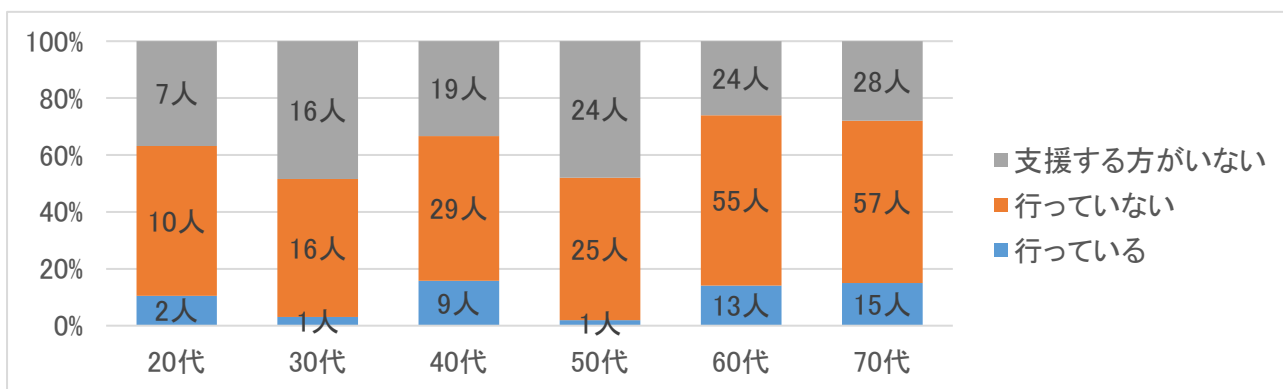
☆12%の市民がすでに日常的な支援を行っている。

【問 7】

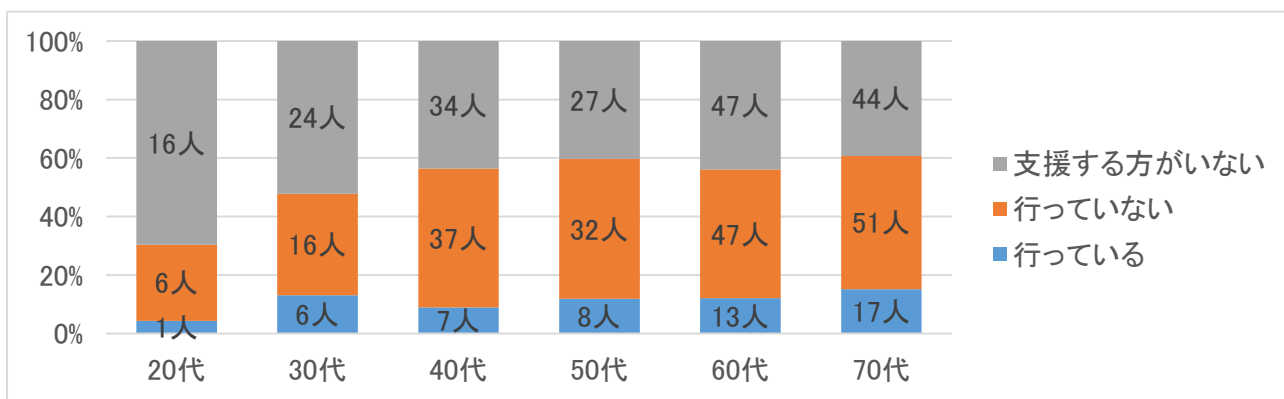
近所に住む障がいのある方やその家族に対する日常的な支援を何か行っていますか。



＜男性年代別＞



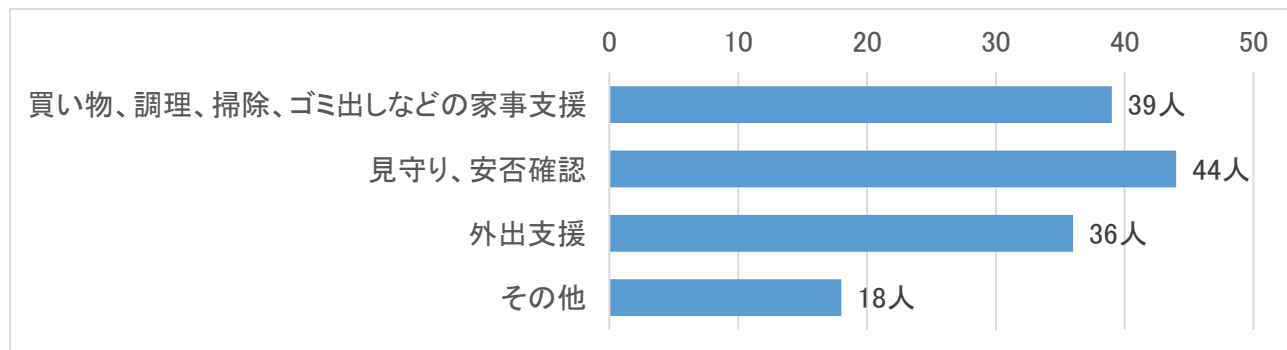
＜女性年代別＞



12%の市民がすでに障害のある方やその家族に対する日常的な支援を行っています。男女間、年代間で特に違いは見られず、若者から高齢者まで幅広く支援者が存在しています。

☆すでに行われている支援の形は様々。

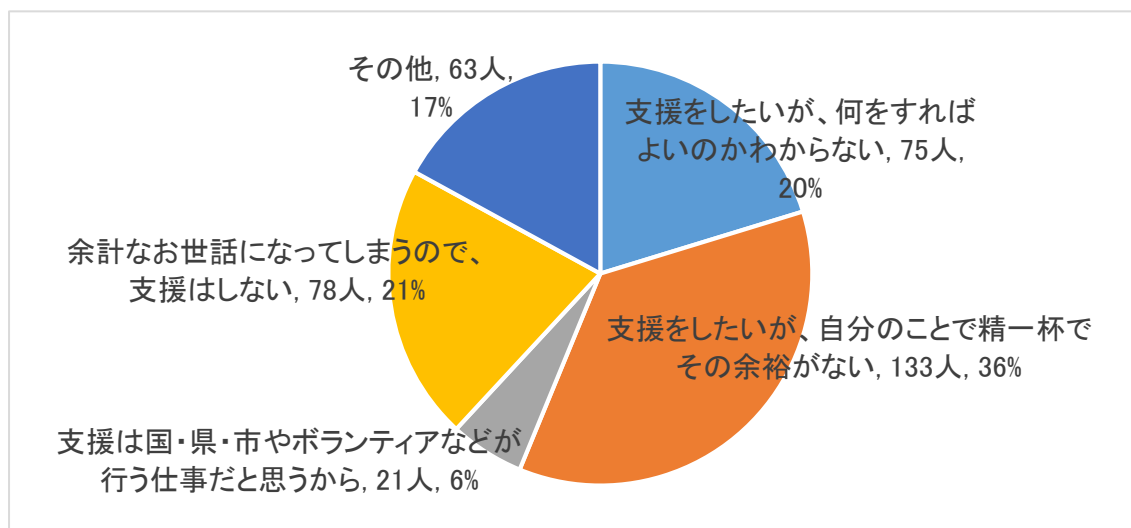
【問 8】 問 7 で「1：行っている」と回答された方におたずねします。
どのような支援が行われていますか。（該当するものすべて）



買い物、調理、掃除、ゴミ出しなどの家事支援、見守り、安否確認、外出支援など、様々な形で障害のある方やその家族に対して支援が行われています。

☆支援をしたいという気持ちが生かされていない。

【問 9】 問 7 で「2：行っていない」と回答された方におたずねします。
それは何故ですか。（1 つだけ）



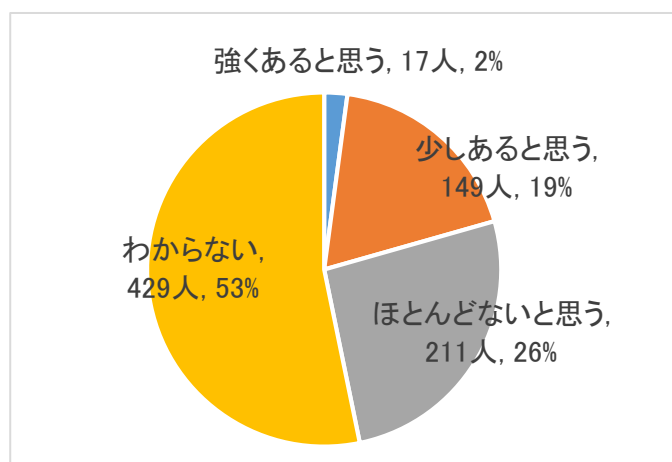
「支援をしたいが、何をすればよいのかわからない」という回答が 20%あり、「その他」で「支援の要請があれば」という記載も多く、支援を必要としている方とうまくマッチングできれば、さらに支援者が増えると思われます。

●権利擁護について

☆障がいがある方への差別や偏見がないと思う人の方が多い。

【問 10】

山陽小野田市では、障がいがある方に対して差別や偏見があると思いますか。

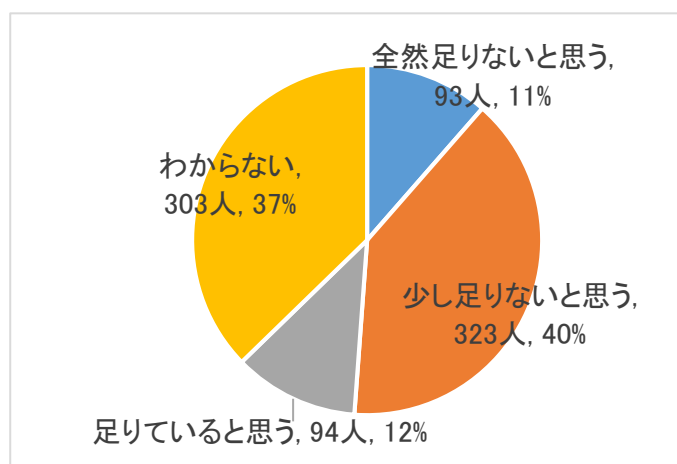


「わからない」が最も多いですが、差別や偏見が「強くある」もしくは「少しある」と思う人より、「ほとんどないと思う」と回答した人の方が多かったです。

☆障がいがある方への配慮や理解が足りないと思う人の方が多い。

【問 13】

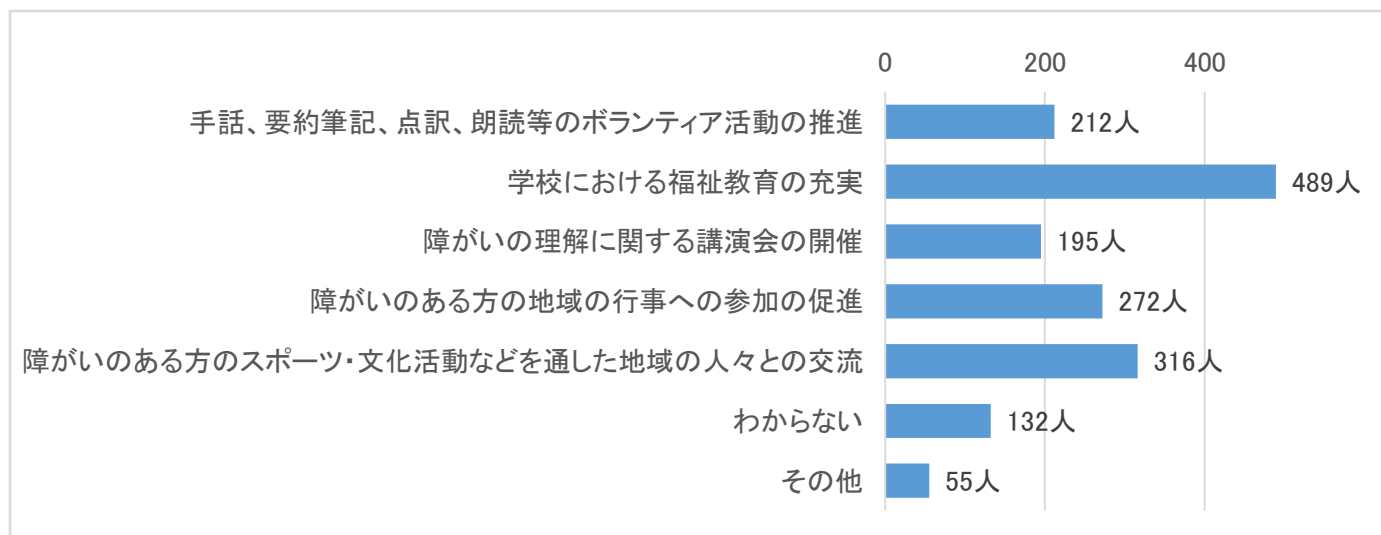
普段の生活の中で障がいのある方への配慮や理解が足りないと思いますか。



「わからない」が最も多いですが、障がいのある方への配慮や理解が「全然足りない」もしくは「少し足りない」と思う市民が5割を超えています。差別や偏見はないと思っても、配慮や理解は足りていないと考える人が少なくありません。

☆障がいへの理解を深めるために必要なのは、学校における福祉教育の充実、
続いて、スポーツ・文化活動などを通じた地域の人々との交流。

【問 14】 社会が障がいのある方への理解を深めるためには、何が必要だと思いますか。



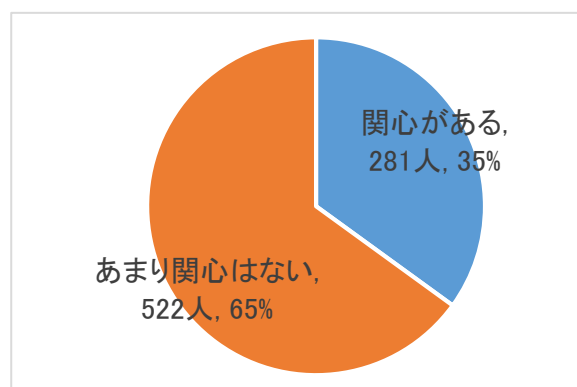
社会が障がいのある方への理解を深めるために必要なものとして、「学校における福祉教育の充実」が最も多く、続いて「障がいのある方のスポーツ・文化活動などを通じた地域の人々との交流」が多かったです。スポーツ・文化活動、地域行事、ボランティア活動、講演会を通じて、障がいのある方への理解が深められることが期待されます。

●その他障がい者福祉等に関する事について

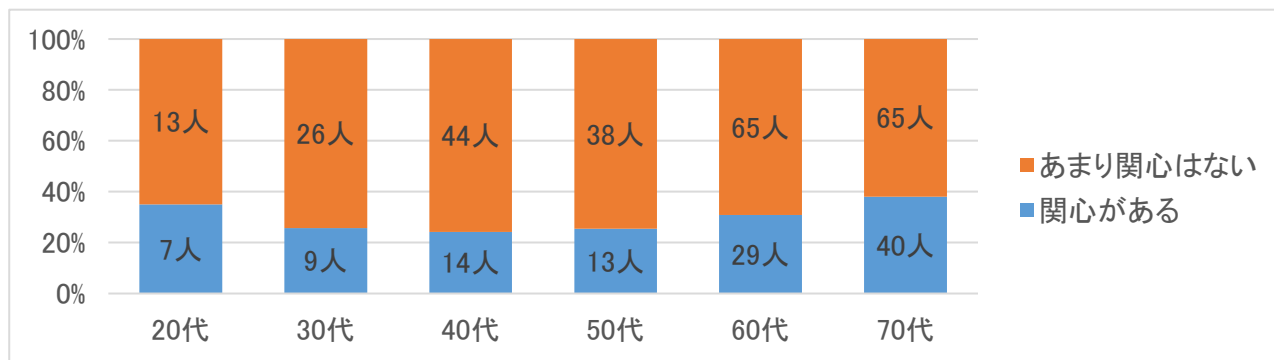
☆障がい分野のボランティアやサークル活動に関心がある人は少なくない。

【問 18】

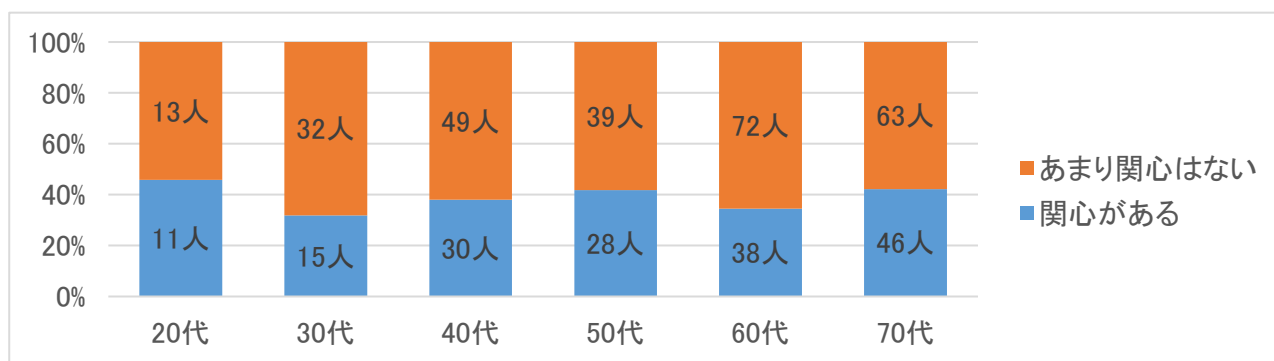
障がいのある方へのボランティア活動やサークル活動に関心はありますか。



＜男性年代別＞



＜女性年代別＞

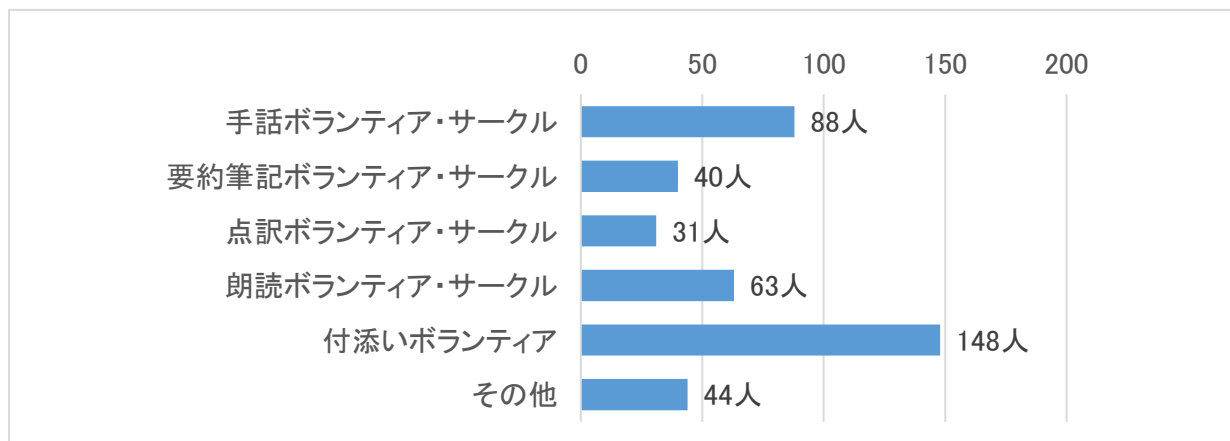


35%の市民が障がいのある方へのボランティア活動やサークル活動に関心があると答えています。男性に比べ女性で関心がある人がやや多いですが、男女とも年代による差はありません。関心を持つ市民が実際に活動につながるような後押しが欲しいところです。

☆どのボランティア活動にも関心を持っている市民がいる。

【問 19】 問 18 で「1：関心がある」と回答された方におたずねします。

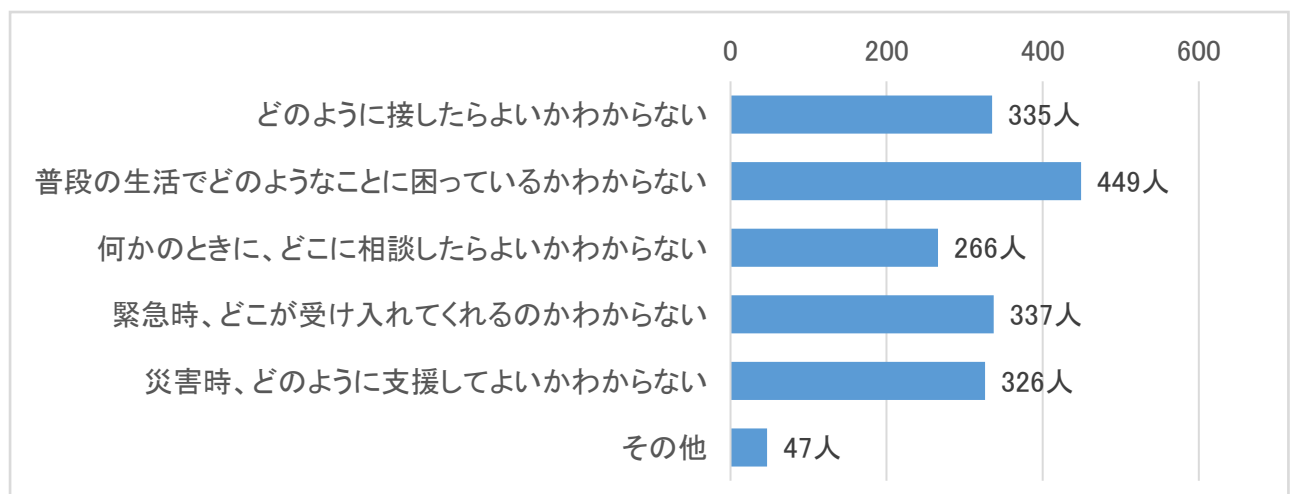
どのような活動に関心がありますか。（該当するものすべて）



付添いが最も多いですが、手話、朗読、要約筆記、点訳と、どのボランティア活動にも関心を持っている市民がいます。すでにそれらのボランティア活動をされている方と引き合わせるなどができるれば、活動につながりやすいかもしれません。

☆障がいのある方が近所にお住まいの場合の不安を軽減できるような方策が必要

【問 20】 障がいのある方が近所にお住まいの場合（お住まいでない場合はお住まいと仮定した場合）、住民としてどのような事が不安ですか。 （該当するものすべて）

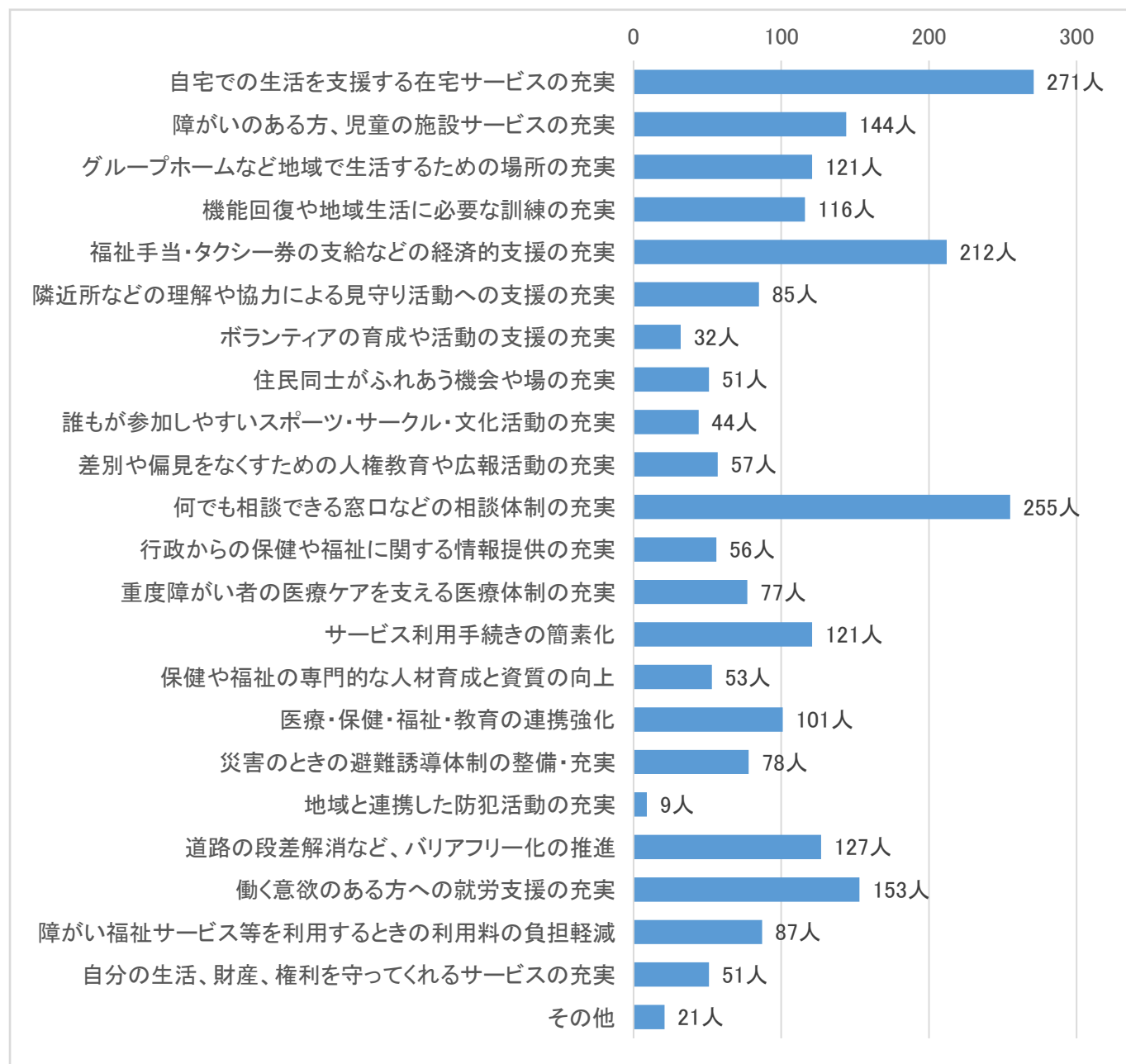


障がいのある方が近所にお住まいの場合（お住まいと仮定した場合）、「普段の生活でどのようなことに困っているかわからない」、「どのように接したらよいかわからない」と回答した市民が多く、さらに緊急時、災害時、何かの時の対応にも不安を持っていることがわかります。不安を軽減できるような方策が必要です。

●今後の希望について

☆重要と思われる障がい福祉施策は在宅サービスの充実、相談体制の充実、経済的支援の充実。

【問 20】障がい福祉施策について、あなたが重要と思う施策はどれですか。
(優先度の高いものを3つまで)



重要と思われる障がい福祉施策として、自宅での生活を支援する在宅サービスの充実、何でも相談できる窓口などの相談体制の充実、福祉手当・タクシー券の支給などの経済的支援の充実が多く挙がっており、これらの施策の強化が求められます。